

第66回横浜労災病院地域医療支援委員会議事録

- 【開催日時】 令和5年7月12日（水） 19:00～20:00
- 【場 所】 横浜労災病院病棟管理棟地下1階 地下大会議室
- 【進 行】 （議事）小川委員長
（議事以外）八田地域医療連携室長（医事課長）
- 【出席委員】 小川委員長 鈴木副委員長 山本委員 岩田委員 山下委員
深澤委員 宮下委員 片山委員 神山委員 相沢委員 北川委員
木村委員
- 【代理出席】 谷田部先生

1 開会

2 三上病院長挨拶

3 議事

(1) 入院・外来患者数等実績報告(令和5年度5月累計)

1 紹介・逆紹介件数

紹介及び逆紹介件数（月平均）は、令和5年度1534.5件/月、1561.5件/月となっており、前年度比で紹介+123.7件/月、逆紹介+55.4件/月という状況であった。緩やかであるが、令和3年度から右肩上がりとなっている。

2 紹介率・逆紹介率

紹介率及び逆紹介率は、令和5年度97.3%、96.1%となっており、前年度比で紹介率+5.2%、逆紹介率△2.2%という状況である。

3 入院患者数・平均在院日数

入院患者数及び平均在院日数は、令和5年度493.5人/10.3日という状況であった。昨年度から取り組んでいるベッドコントロールチームが委員会となり、引き続き病床管理の効率的な運用を続けている。その結果として前年度比+9.1人となっている。

4 外来患者数（延患者数・実患者数）

外来患者数は、令和5年度1704.2人/日であった。内訳で分析すると、前年比の実患者数が+57.8人/日（1011.3人/日）と増加している。

- 5 救命救急センター取扱患者数・救急搬送件数
救命救急センター取扱患者数及び救急搬送数は、令和 5 年度 2058.5 人/月、792.5 台/月という状況である。前年度比は+142.5 人/月、+46.2 台/月と増加している。また、コロナ前の令和元年度の取扱患者数を超え、搬送件数については約 1.4 倍となっている。
- 6 新入院患者の経路別入院数
新入院患者の経路別入院数は、令和 5 年度 1530.0 人/月と前年度比+39.9 人/月となっている。これは、外来実患者の増、救命救急センター取扱患者の増ということもあって、外来からが+25.9 人/月、救急からが+14.0 人/月という結果であった。
- 7 分娩件数・ハイリスク分娩件数
分娩件数及びハイリスク分娩件数は、令和 5 年度 54.0 人/月、12.0 人/月と前年度より増加した。前年度比で分娩件数+5.0 人/月、ハイリスク分娩件数+2.7 人/月という状況であった。
- 8 分娩にかかる地域別患者構成比
分娩にかかる地域別患者構成比は、病院所在地である横浜市港北区を含む旧横浜市北部医療圏が 79.8%とほぼ例年通りの状況であった。内訳をみると、港北区と都筑区が減少し、神奈川区と緑区が増加した。また、里帰り出産の影響で神奈川県外の分娩件数が増加している。
- 9 放射線（ノバルス・リニアック・IMRT）治療実績
放射線治療実績については、令和 5 年度 25.0 件/月と前年度比△0.2 件/月とほとんど変わらない状況であるが、内訳をみると脳神経外科の件数が増え、それ以外の診療科の件数が減少している。
- 10 ガンマナイフ治療実績
ガンマナイフ治療実績については、令和 5 年度 33.5 件/月であり、前年度比△9.3 件/月という状況であった。
- 11 ダヴィンチ治療実績
ダヴィンチ治療実績については、令和 5 年度 19.5 件/月であり、前年度比+1.3 件/月という状況であった。増加した要因としては、対象疾患が拡大したことが考えられる。

(2) 新規登録医療機関について

令和5年2月～令和5年5月にかけて新規登録医療機関は、医科が28医療機関、歯科が4医療機関となっている。旭区が8、都筑区が4、保土ヶ谷区・青葉区がそれぞれ3、その他10医療機関という状況となっている。旭区が多い理由として、新横浜駅に相鉄線が繋がったということで医療機関訪問をしており、その際に登録医のご案内をしているためである。

(3) 登録医制度実績について

令和5年5月末現在の登録医療機関数は801医療機関、医師数1077名となっており、医科が643医療機関、歯科が158医療機関という状況である。

共同利用の利用状況は以下のとおりで前年より増加傾向であった。

CT	59件(5月累計)	29.5件/月(前年比+2.6件)
MRI	36件(5月累計)	18.0件/月(前年比+3.9件)

(4) m3.comへの記事配信について

令和2年9月よりm3.comへ配信しているが、今年度は6月末時点で4診療科が配信している。また、7月14日にも配信予定となっている。今後も診療科の協力を得ながら継続することとしている。

(5) 地域医療介護ネットワークシステム導入に係る準備状況について

システムの連携構築状況について、もともと6月から運用を開始する予定で進めていたが、準備の都合もあり8月1日からの運用開始となる。7月からは同意取得済患者の登録作業と患者同意取得に向けたプロモーションを行っていく。

(6) かかりつけ2人主治医制の推進について

もともと患者へかかりつけを持ちましようとする案内をしていたが、なかなか浸透しないため、新たに2人主治医制という言葉を用いて推進していく。

(7) 時間外選定療養費の徴収開始について

軽症の患者やそもそも救急受診する必要のない患者を減らし、重症の救急患者を応需できるようにするため、また、地域の医療機関との役割分担を推進するため時間外選定療養費を8月1日から徴収することとなった。

(8) 質疑応答・意見交換

(深澤委員) コロン患者の入院に関して、医療機関同士で連絡を取り合いお願いすることとなっているが、実際にクリニックから依頼されることはあるか。

(平澤副院長) 5月以降に地域のクリニックから依頼されたことはないが、施設からの依頼は数件あった。

(深澤委員) 昭和大学北部病院で、救急できた患者を検査してみるとコロナだったというケースが多いと聞いたが、横浜労災病院でもそうなのか。

(平澤副院長) その通りです。

(山本委員) 現在、小児科でRS ウイルスの患者が多くなっていて、入院ができないと聞いたが、横浜労災病院でもそうなのか。

(平澤副院長) 一時期当院でもそのような状態だったが、現在は落ち着いてきている。

(山本委員) 青葉区では分娩件数が減少しているが、他の区ではどうか。

(北川委員) 港北区の出生数が、これまで3000人以上を維持してきたが、令和4年度初めて3000人に届かなかった。

(鈴木副委員長) サルビアねっとのセキュリティーは大丈夫なのか。

(事務局) 院内の電子カルテを外部に直接繋ぐことはなく、サルビアねっどに関しては3省2ガイドラインに準拠しているため、そこを信用している。

(深澤委員) これまでの紹介・逆紹介とかかりつけ主治医制の違いはなにか。

(事務局) 違いはありません。患者にわかりやすくするためにかかりつけ2人主治医制という言葉を使っています。

(山本委員) 大きい病院からクリニックに戻した際に、患者は非常に不安を感じるが2人主治医制という言葉を使うことで安心することができるため良いと思う。

(深澤委員) 時間外選定療養費について、料金が発生しない場合の中に「当院を受診後、当日中に症状悪化により再受診する場合」とあるが、この当日中は受診日の翌日の8時15分までという認識でよろしいか。

(中村救急科部長) その通りです。

(山下委員) 時間外選定療養費の対象になる患者は、現状どのくらいの割合になるか。

(中村救急科部長) 具体的にどれくらいかは見込めていない。

(深澤委員) 膵癌早期発見プロジェクトについて、どの程度の患者を紹介しているのか。

(事務局) 膵癌は早期発見が重要であるため、少しでも疑いがあれば紹介いただいて構いません。

(相沢委員) 情報共有として、全国的に薬の在庫が厳しく、ある特定の薬局だけが無いわけではないので、先生方には患者の薬の変更など協力をお願いしたい。

4 閉会

(事務局からの説明)

本日の内容は、後日、議事録としてお送りいたします。

また、次回の委員会については、後日改めてご連絡をさせていただきます。